

地域密着型サービスの自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1 ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	独自の理念の中に地域密着を入れている。職員の理解と共有の為職員自身が作っている。		
2 ○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員一人ひとりが常に理念を意識して共有し取り組んでいる。 目につく所に掲示し職員一人ひとりが実践に向けて取り組んでいる。		
3 ○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族や地域の人々には行事等に参加して頂き理解を図っている。	○	これからも家族や地域の人々に理解してもらえるような努力をしていきたい。
2. 地域との支えあい			
4 ○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩時に挨拶を交わしている。	○	隣近所の人々と気軽に交流できる場面を提供していきたい。
5 ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	夏祭り、老人会等の行事に参加してもらい交流に努めている。	○	町内の行事へ少しでも多く参加するよう努力していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の行事等に参加し高齢者との交流を図っている	○	これからも積極的に地域との行事等に参加し貢献していきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員で記入し話し合い外部評価の意義を理解している。 評価されたことを開示して迅速に対応している。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営推進会議を開催しサービス向上に活かしている。 2ヶ月に1回家族に参加してもらい実施している。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市のケアマネジメント推進事業に参加し市の担当者が他施設の職員と交流しサービスの質の向上に取り組んでいる。	○	毎月の定例研修会で報告し情報交換を行いながらケアに活かしていきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	職員の代表が研修に参加し学び定例会にて報告して活用できるよう支援している。 成年後見制度を活用している家族がいる。これからも必要に応じて関係者と話し合い支援していく。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	研修で学び報告、全職員で虐待を見過ごさないよう又、防止に努めている。 全職員で予防に努め取り組んでいる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には管理者、ユニットリーダーが立ち会い十分な説明を行っている。 十分な説明を行い理解と納得を得ている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情、意見ノートを設け面会時等に言ってもらえるようにしている。ひとつひとつを丁寧に対応している。 利用者の不満や苦情は職員間で話し合いをしている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	定期的に状況報告を行い金銭面においては面会時確認している。職員の異動はその都度報告している。 面会時に常に状況報告を行っている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族より意見、不満、苦情があった時は内容を検討し改善するよう努めている。 家族よりの不満、苦情は職員間で話し合い内容によっては管理者に報告し指導を受けている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者と職員の面談時や定例会、ユニット会等で機会を設けている。常に意見や提案を発言する機会を設けている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者の対応が確実にできるよう常に職員を確保している。 急な変更時等はリーダーを中心に話し合いで調整している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	3ユニットなので各ユニット間の馴染みの関係を保つことを重視しミーティングや各行事、合同レクレーション、食材搬入等を通じて利用者、職員との交流を深めることに心掛けている。	○	利用者と職員の馴染みの関係作りはサービスの質の確保につながるので職員交代による利用者のダメージを防ぐ具体的な努力や工夫を行い、3ユニットが同じように良くする気持ちを大切に育んでいきたい。
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内、外部研修や毎月の定例会を実施している。全員が共有できるよう研修内容を報告する機会を作るよう取り組んでいる。 職員の知識向上のために定期的に研修を行っている。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	中央ブロック研修や認知症ケアマネジメント推進事業等に参加している。	○	グループ内の施設や地域他施設を訪問・見学しサービスの質の向上に役立てていきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	業務上の悩み、職員間のトラブル等早く察知し適切な対応を行っている。 一人で悩み込まない。いつでも話し合える雰囲気作りをしている。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	勉強会等参加し、情報交換の場にて報告。個々の知識向上に向けた取り組みをしている。 業務がスムーズに行われるよう統一したケアを提供するよう職員間で声掛けを行っている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	日々の生活の中で利用者への積極的な声掛け、訴え時、傍に寄り添い傾聴・受容し業務優先にならないよう努めている。 利用者が安心して落ち着いた生活が過ごせるようその都度対応を行っていくよう努めている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族に利用者の生活の様子について情報提供し気がかりなことや意見・希望を職員に気軽に伝えたり、相談できるようなことや面会時の声掛け、定期的な連絡等を行っている。 家族の面会時には必ず職員が面談して利用者の状況を報告し家族から要望等を聞くように努めている。	
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者が新しい環境に早く慣れるよう家族・本人の意向を聞き適切な対応ができるよう十分な配慮をしている。 利用者の思いや意向について関心を持ち把握しながらその人らしく過ごしてもらう支援に努めている。	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	見学时、家族・本人の意向や相談等十分話し合っている。又事前に家族同伴で来園してもらい、ホームでの雰囲気等を理解・納得の上でサービスの利用開始を行っている。 本人にあったサービスを提供し落ち着いた生活が送れるよう援助している。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の先輩である利用者から学ぶことが多く、日々の生活の中で利用者の積極的な声掛けが行われている。常に寄り添って傾聴・受容し業務優先にならないよう努めている。	○ 目線を合わせ、感情的にならず信頼関係をつくるよう、これからも心がけ努力していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	利用者の状態報告を行い家族が安心してまかされるよう又家族からの要望など聞き内容を職員で話し合える対応を行っている。 日々の生活の中で利用者の状況、家族からの意見等取り入れ楽しい日々が過ごせるようにしている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族が気軽に訪問でき本人が居心地よく過ごせるような雰囲気を作っている。	○	訪問回数を増やし会話の機会を多くもってもらいたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の本人の今までの生活の様子出来ること等時折会話の中に取り入れたり気分転換にドラック、レクレーション等に参加し親睦を図り生きがいのある生活を送るよう支援している。	○	家族が訪問の時外出時間を設け時には親戚、兄弟の家等連れて行ってほしい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者も個々体調も異なる為一人ひとりにあった簡単な作業など提供したりユニット内で全員参加のレクレーション、軽い体操又元気だった頃の話など話し合える雰囲気づくりに努めている。行事、レクレーションに参加し共通の話題を引き出し楽しく過ごしている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約が終了している家族等が困っていること、分らないこと等相談を受けた時はその都度適切なアドバイスをを行い安心して毎日が過ごせるよう支援に努めている。 退所後も家族より相談などあれば即適切なアドバイスをを行っている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	○	職員を多く配置し利用者優先のケア実現を図って頂きたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	○	介護計画に連動した記録の工夫をしていきたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	○	本人、家族に希望を聞き職員の意見や栄養士、医務主任から依頼書にコメントをもらい介護計画を作成している。 3か月毎にカンファレンスに於いて話し合い課題について決定しケアにあたっている。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	○	3か月毎に介護計画の見直しを行っている。変化に応じてその都度本人、家族、担当職員で話し合いが行われている。 特変時には状況に合わせ本人、家族に必要な関係者で支援を決定していき、現状に即した新たな計画を作成している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアを実施個別記録に残し情報を共有、日々の実践や介護計画に活かしている。センター方式によりケアを行っている。口語体で記録し、より本人希望の介護支援に活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、馴染みの関係を大切にしながら事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況に応じて必要な支援は対応している。 複合施設により本人や家族の状況に応じ柔軟な支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地元の活動や地域住民との交流に積極的に働きかけ地域の支援、協力、認知症の理解を得てほしい。 園児や小中学校との交流が行なわれる等周辺施設との関係づくりがなされている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	利用者の希望に添いより良い支援を行っている。本人の意向に添い必要性に応じ利用支援を行っている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	本人の意向や必要性に応じて支援センターと協働している。	○	地域包括支援センターと連絡連携を持ち必要性に応じて協働していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の現在の受診の希望を把握して適切な医療を受けられるよう支援している。本人、家族の希望に応じ併設病院又、専門病院へ受けられるよう支援している。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	医療法人が母体であるが利用者個々の意思を尊重してそれぞれのかかりつけ医に受診している。受診時は家族及び職員が付添支援を行っている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	複合施設なので医療体制は整いその都度相談しながら連携を取り合い支援を行っている。複合施設なので気軽に相談しより良いケア支援に活かしている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	家族も了解の上である為入退院についてはトラブルはない。家族とホームや医師との連携を十分図っている。入退院の前後には家族、本人に関わる保健医療福祉関係者と十分話し合う支援に努めている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	複合施設なので医療体制も整いターミナル期も対応している。ターミナルケアについて文章にて承諾を得ている。本人、家族それに関わる関係者と繰り返し話し合い方針を決定していく。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	複合施設なので医療体制も整いターミナル期も対応できる。ターミナルケアについての研修会、学習会を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	家族、本人及びケア、医療関係者間で十分な話し合いを行い本人にとってダメージが最小限にすむよう選択支援を行っている。 家族、本人及びケア、医療関係者間で十分な話し合いを行い本人の生活を大切にしたい選択ができるよう支援を行っていく。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	本人の性格、生活歴など知りその本人に応じた声掛けや対応を行っている。個人情報守秘義務を守って必要な場合は家族の了解を得て取り扱っている。 これからもプライバシーを大切に個人情報を守りたい。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	声掛け対話し本人の話をきいて支援を行っている。本人に納得してもらえるよう説明を行っている。	○	本人から思いや希望が言えるような環境、声掛けの工夫をしていきたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先にならないよう本人のペースを大切に支援を行っている。	○	その人らしい暮らし、希望にそって支援していきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	散髪は月に1回、爪切りは週1回程度職員が行っている。洋服は家族が持参されたり職員が本人に似合うものを選んで買ってきている。身だしなみは起床後洗面、整髪等促して行っている。	○	その人らしい身だしなみやお洒落ができるようこれからも支援していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食への意欲がでるよう作業や運動を取り入れておいしく食事できるよう支援している。	○	食事を楽しむことができるよう利用者と職員と一緒に準備や片付けをして喜びや楽しさを図っていききたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人の好物を家族が持参（魚等）したものを調理し提供している。	○	本人の状態に応じて望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等楽しめるよう支援していききたい。
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	本人の訴えをきいてトイレへの誘導介助を行っている。尿意がない場合は定期的な声掛けを行い清潔保持に努めている。	○	これからも本人の意志、清潔保持を大切にいて行っていききたい。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は決まっており本人の状態に応じて支援を行い清潔保持に努めている。	○	これからも本人の状態に応じたペースで清潔保持に努めていききたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	定期的に寝具の日光消毒、シーツ類交換を安眠できるよう行っている。本人のその時々状況に応じて眠れない時は見守りを行い対応している。	○	安心して休めるようその時々状況に応じて安全に対応していききたい。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	出来ることへの喜びを感じ楽しく生活が送れるように本人に応じた簡単な作業、好きなこと、外気に触れたり散歩等の気分転換を行っている。	○	本人の生活歴や力を大切にして喜びや楽しく過ごせるよう支援していききたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人にお金は持たせていない。おこずかい帳があり家族の了解を得て使用している。		本人の希望を大切にして家族と話し合いながら使用していく。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	業務同行してもらい散歩することが多い。希望にそって外出するのは難しい。	○	本人の状態に応じてできるだけ散歩できるよう支援していきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族とのふれあいデー、今年からは遠足も加わり職員との外食、ミニドライブ等の行事があり支援を行っている。	○	これからも家族、職員との外出の行事を作って楽しい思い出となるよう支援していく。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話に本人が出たり手紙を読んだりして支援している。	○	これからも家族と電話で会話したり手紙のやり取りができるよう支援していきたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族が、知人、友人等いつでも気軽に来てもらえるよう居心地よく過ごせるよう対応を行っている。	○	これからも本人に関わる人が気軽に来てもらえるよう対応を工夫していく。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	安心して生活できるよう身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	○	これからも声掛け見守り介助を行い身体拘束をしないケアに取り組んでいきたい。

宮崎県宮崎市高岡町 グループホームたちばな（3号館）

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関の開閉時に鳴る鈴の音に常に留意し無断外出しようとする利用者に対して会話対応し安全に努めている。 職員間で玄関の開閉時に毎回大きな声で挨拶するようにしている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	一人ひとり優しく声掛けを行い不安を取り除き本人の希望により添い対応を行っている。 職員間で声掛け連携を徹底し利用者の居場所の確認を行い安全に努めている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意の必要な物品は所定の場所に保管し危険を防ぐ取組をしている。ハサミ、針等利用者より要望があった時には側に付き使用後は回収し安全に努めている。 ポリデント（義歯洗浄剤）は預かり定期的に消毒を実施している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	立位、座位、歩行時のふらつき、座り込みによる転倒を防ぐ為個別に介助している。無断外出の怖れのある利用者に対して職員間で連携し安全に努めている。 服薬時は名前、日時を確保し職員間で声掛け合って服用するよう周知徹底している。		
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	グループ内での研修、グループホームでの定例研修会、連絡協議会の研修に参加し備えている。マニュアルを作成し定期的に行っている。	○	定例研修会に消防士を招き定期的に訓練を行っていく。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	毎月避難訓練実施。地域の人々に協力をお願いしている。グループ内の職員へ協力依頼、連絡網が周知している。	○	2階なので避難経路（トンネル式滑り台、屋根ず帯に避難）の確保をしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	日頃の状態を電話、面会、行事参加時に報告し対応を細めに説明している。夜間ベット柵、布団に鈴を付け音により早めの対応を行っている。センサーマットを使用し動きを把握し転倒防止に努めている。夜間（職員が一人）同時に介助が生じた場合の優先順位を考え声掛け、ケアを工夫し安全確保に努めている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	熱発しやすい利用者に対して定期的なバイタル測定を実施し早期発見に努めている。食事摂取量、顔色呼吸状態等を常に把握し体調の変化や異変に留意している。言動がいつもとちがう場合はバイタル測定を行い異変の発見に努めている。早め早めの発見対応をするよう職員間で話し合い共有するようにしている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服薬についてはケースに処方箋を配付し確認、理解している。症状が変化した時は主治医に報告し指示をもらっている。服薬を拒否したり口から出したりする利用者に対して声掛け確認しタイミングを工夫し取り組んでいる		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排泄介助を必要とする利用者に対しては確認がとれチェックできるが自立排泄の利用者に対しては長く洋式トイレに座っていたり下着の汚れ等で確認している。散歩、業務同行、軽い運動を行い便秘予防に努めている。水分補給をチェックし細めに補給している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	自力で歯磨きができない利用者には介助にて義歯洗浄、うがい介助実施。声掛けが理解できず拒否する時は時間をずらし声掛けを工夫している。義歯を外し紛失する恐れのある利用者に対しては預かり食膳に装着する。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士に文章、口頭で状態報告し指導を受け一人ひとりに応じた支援を行っている。ケアカンファレンスで話し合い必要な場合はケアプランに上げチェックを行い統一した対応をするようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	C型肝炎利用者に対しては食器を別にし強酸性水で消毒している。出血時手袋使用、衣類等他利用者と別に対応している。インフルエンザは職員、利用者全員予防注射を受けている。C型肝炎利用者は最後に入浴実施し出血による感染防止に努めている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材は常に把握し安全に努めている。台所、冷蔵庫、食器棚の整理整頓、掃除は細めに行い衛生管理に努めている。食材分け時食材の状態把握を行い適切でない材料の時は業者、セントラルに連絡し対処するようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	ベランダには季節の花を植えフェンスにはにがうり西洋あさがおがほこり一年中緑のある環境作りに心掛け実施している。花の水やり、枯れた葉っぱを取ったり利用者と一緒にベランダに出て会話をしながら楽しんでいる。スロープの歩行が厳しくなってきたり利用者が多くなっている為、状態に応じて車椅子を使用している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールに衝立を置きトイレとホールの空間の配置に努めている。ホールベンチ、長椅子に座布団を置き暖かい雰囲気づくりを行っている。玄関には季節の花（ベランダに咲いた）を飾ったり家族が持参された花を飾っている。行事や家族が提供した写真を拡大コピーし共同空間に貼り見て会話し楽しんでいる。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂ソファに座り職員や利用者との会話を楽しんでいる。臥床したい時は自由に居室に戻り横になり休息している。	○	現在あるソファからの立ち上がりが困難になってきているので検討していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	利用者一人ひとりの心身状態に合わせて本人や家 族と話し合い使い慣れたものを使用する。	○	G・Hでの作品を部屋に飾ったり家族が持参した (写真、人形等)を飾りその人らしい生活が送れ るよう工夫していく。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないう 換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	居室でベッド臥床して過ごす利用者に対しては本 人に声掛けし温度調節を細めに行っている。居室 を利用しない利用者に対しては居室の入り口を閉 めアミ戸にし換気に努めている。	○	行事に参加したり食堂で全員が過ごしている時等 利用者の管理が出来るとき窓を開け換気をこれか らも行っていきたい。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	ホール内歩行介助をしたり手すりを利用して足踏 み運動をして下肢筋力強化や浮腫の軽減に努めて いる。	○	ホール内、ベランダスロープを利用して一人ひと りの身体機能の状態に合わせて散歩を楽しんでい きたい。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	それぞれの居室入口に名前を書き確認の声掛けを 行っている。言動を把握し状態に応じて混乱や失 敗を防ぐよう個別介助を行っている。	○	一人ひとりの残存機能を把握し混乱や失敗を防ぎ 安心して生活していけるよう環境づくりに努めて いく
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽し んだり、活動できるように活かしている	ベランダからの眺めがいいので椅子に座り会話し たりベランダの花壇の花を見て楽しんでいる。	○	ベランダで外気浴をしながら食事をしたりお茶を 飲みながら会話を楽しむ機会を作っていきたい。

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

（この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。）

- ・身体機能低下や認知症進行によるレベル低下があり職員間で話し合いをし、早めの対応を行い転倒防止に努めている。またベッド臥床して過ごす利用者に対し、福祉用具を使用して見守り強化し行動把握している。
- ・一人ひとりの利用者の状態観察を職員間でこまめに話し合い変化が生じた時は報告・連絡を早めに行いグループ内の関連機関と連携をとり早めの対応ができ、防止出来ている。